

前立腺の病気のお話



東京女子医科大学八千代医療センター
泌尿器科 鬼塚 史朗

はじめに

前立腺は男性にだけある臓器です。膀胱の下にあって、膀胱から出た尿道の周りを取り囲むように存在し、栗の実に似た形をしています。前立腺の前には恥骨と呼ばれる骨盤の骨があり、後ろには直腸があります。前立腺は精液の一部を作っていて、一回の射精量の3分の1位が前立腺から分泌されます。

前立腺肥大症

前立腺が大きくなるとともに内部を通る尿道を圧迫し、狭くします。その結果、排尿においてさまざまな支障が生じ、日常生活に影響が出てきます。これが前立腺肥大症という病気です。

前立腺肥大症に悩む人の数は、年齢が高くなるにつれて増えています。80歳までに80%の人がなるといわれ、成因についてはまだ不明な点が多いのですが、加齢と男性ホルモンという2つの要因が必要であることは広く認められています。年をとると前立腺は程度の差はあれ肥大します。そしてこれが尿道に突出し排尿障害をきたしてくると、治療の対象となります。

前立腺肥大の症状として、排尿後まだ尿が残っている感じがする(残尿感)、トイレが近い(頻尿)、尿が途中で途切れる(尿線途絶)、急に尿意をもよおしめれそうで我慢できない(尿意切迫感)、尿の勢いが弱い(尿勢低下)、おなかに力を入れないと尿が出ない(腹圧排尿)、夜中に何度もトイレに起きる(夜間頻尿)などがあります。国際前立腺症状スコア(I-PPS)という症状の程度を調べる質問票を使って、症状とその程度を点数化する方法もあります。排尿障害があるからといって、必ずしも前立腺肥大症とは限りませんから、他の病気の可能性も含めて確認するための検査も必要です。

前立腺肥大症の治療には、薬物治療、低侵襲手術(からだに対する負担の少ない手術治療)、および根治的手術があります。前立腺肥大症の薬物療法は、 $\alpha 1$ 受容体遮断薬が第一選択薬です。 $\alpha 1$ 受容体とは、排尿・蓄尿をコントロールする自律神経からの命令を受け止める部位で、前立腺や尿道の筋肉に数多くあります。この $\alpha 1$ 受容体のはたらきをブロックするのが $\alpha 1$ 受容体遮断薬です。この薬の作用によって、自律神経の過剰な命令によって緊張している前立腺や尿道の筋肉が、弛緩してリラックスするため、排尿に関係したさまざまな症状が改善されます。根治的手術としては、手術は尿道から内視鏡を入れて行う(おなかを切らない)経尿道的前立腺切除術(TUR-P)が主流です。薬物治療や低侵襲手術で効果が不十分な時、または尿閉や尿路性器感染症をおこす、あるいは腎機能に影響を及ぼすような場合には根治的手術が必要となります。



東京女子医科大学

八千代医療センター

TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY YACHIYO MEDICAL CENTER

